

地域づくり表彰

なる
奈留まちづくり協議会

(長崎県五島市)

「島の人をつなぐ」=奈留まち協もやい場

なる
奈留まちづくり協議会

会長

さこなか まさのり
窄中 誠致

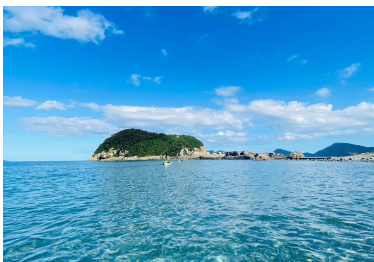


1. 奈留島の概要

奈留島（長崎県五島市）は、長崎市から約 100 km 離れた九州の最西端・五島列島のほぼ中央に位置する面積 23.68 km²、周囲 75.4 km、人口およそ 1800 名の島です。島の歴史は古く、先史時代に人が暮らしていた痕跡や、遣唐使・勘合船が寄港した記録も残っています。

また、かつてキリスト教徒が新天地を求め移住した地でもあり、信徒達によって建立された江上天主堂がある江上集落は、2018 年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として世界遺産に登録されました。

島には、小中高校が 1 校ずつあり、県立奈留高等学校の愛唱歌として作られた荒井由実（現松任谷）氏の名曲「瞳を閉じて」は、島の誰もが口ずさめる島の愛唱歌として歌い継がれています。



奈留島を囲む綺麗な海



奈留高校の「瞳を閉じて」歌碑

2. 活動開始の背景・経緯

奈留まちづくり協議会（まち協）は、2015 年度に五島市内 13 地区あるまちづくり協議会のひとつとして活動を始めました。活動を始めた数

年間、既存事業を継続して行うことが多く、まち協の会員自身も地域への関心が低い状態でした。

そこで、2019 年度に協議会内にある 4 つの部会の協議を毎月の定例開催とし、地域のことを地域住民で話し合うことを始めました。この毎月の部会は、第 3 金曜の 16 時～というように開催日時と場所を固定し、開催案内はせずとも、これまで参加者がゼロだったことはありません。

この定例部会はコロナ禍も継続し、住民だからこそ知る島内の小さな動きや話題をみんなで共有しました。

地道な話し合いやアンケートをする中で、2022 年春に「奈留島は漁業の島であるのに、魚を楽しめる店がない」「観光客に尋ねられると困る」ということが話題となりました。まち協自体も高齢化が進む中で、飲食店ができるのを待つのではなく、今取り組まないと次はない！という思いから、自分達で場を作ることを決意しました。空き家を探し、魚を卸してもらえるよう漁師さんの元へ出向き、改装資金は補助金を使わず、クラウドファンディングと地域の皆さんのご寄附でのみで、月に一度だった話し合いは、週に一度以上のペースになりました。

幸い、これまでの多くの協議を重ねていた経験がスピード感を持って協議する下地となり、春に検討を始めてからわずか半年で「まち協もやい場奈留島どがんね」はオープンにこぎつけました。



当時の地域振興部会の様子



オープンした「もやい場」

3. 活動内容

「まち協もやい場奈留島どがんね」では、火・土曜に奈留島の魚をふんだんに使った魚定食(1,100 円)を、木曜には海鮮カレー（サラダ付 700 円）を提供しています。厨房に立つのは全員地域の料理自慢の方々です。飲食業経験者はいませんでした。奈留の食材には長けている方ばかりです。



もやい場ができたことにより、これまで世界遺産の江上天主堂に寄って立ち去るだけだった観光ツアーが、もやい場にも立ち寄るように変化し、個人観光でも、もやい場自体が奈留島に来島するきっかけになってきました。週 3 回の食事提供ではありませんが、2022 年 10 月のオープン以来、

2024年3月末時点で2,600人以上の方に奈留島の魚を楽しんでいただいています。魚を提供して下さっている漁師さんが、これまでは水揚げした魚は島外へ出荷するので、獲った魚を島内で食べてもらえることが嬉しいと喜んでくださることも励みとなっています。



もやい場では、料理を提供していない日もあります。そういう日は、島内の食堂から出前をとって食べてもらっています。飲食店が他の飲食店から出前を取るの珍しいとは思いますが、奈留島には出会ってほしい味がまだまだあるので、喜んで対応しています。

もやい場は、船を係船する際のもやい結びからとった店名の通り、島に集う人々を結ぶ場所としても活用しています。地域の方の手作り商品販売やワークショップの会場としても活用してもらっています。また、夏休みには島内外の小学生を対象に、接客や食事の提供などを体験する「どがんねキッズ」を開催し、今年も15名の島内外の子ども達が参加してくれました。



そのほかにも2023年より、7月6

日を「奈留の日」とし、7月は地域のみなさんが奈留島で過ごす毎日をもっと好きになるため・好きだと再認識するためのイベントを数多く開催しています。中でもユニークなのは、大漁旗をバトンにして、ランナーが島内をリレーしていく「大漁旗マラソン」です。



高齢化や島内のバスが廃止され、島のイベントに参加できない方が多くなる中で、来れないなら私たちから会いに行こう！と島内全地区を走ることになりました。自宅付近にランナーが到着すると、自前の大漁旗を振って応援してくれる方や玄関先に何枚も大漁旗を飾って待っていてくれる地区もあります。走行状況をまち協が運営している公式LINEで実況しているので、ランナーを先回りして声援を送るおっかけ応援団まで現れるようになりました。走行距離は自分が走れる分だけなので年齢問わずに参加できます。今年は、2歳～70代まで総勢41名のランナーで、5時間41分をかけて完走しました。



また、奈留高校の愛唱歌「瞳を閉じて」を島民みんなで歌う「瞳を閉じて大合唱」も奈留島ならではのイベントです。

奈留島では、この歌は島を離れる方の見送り時に歌う曲でもあり、奈留高校生だけでなく、奈留島島民なら誰もが歌えます。奈留港に入港したフェリーをプラカードを持って出迎えると「何が始まるんだ？」と乗船客もデッキに出てきてくださいます。船に乗っているということは、

その方々は奈留島では下船しないんです。でも、いつかは奈留島で降りて、奈留を楽しんでほしい。こんな島があるんだと知ってほしい。そんな思いを込めてみんなで歌っています。



4. 地域住民で考えるまち協

奈留島の人口は、1960年のピーク時で9,268人、2024年9月末現在では1,776名で高齢化率は61.66%。いつまで安心して住めるのか、いつまで島に学校があるのか、待ったなしの状態です。

まち協には、もやい場運営や奈留の日を中心に取り組む地域振興部会のほか、保健師さんと一緒に毎月各地区を巡回し、主に高齢者の健康相談や暮らしの困りごとを伺う座談会を福祉部会が実施したり、子ども達への文化継承や島の学校の魅力化に取り組む文化・教育部会、島内20地区の町内会を支援する町内会活動部会があり、地域のみなさんが日々島の現状に向き合っています。

最近では新たに、生徒数が減少している奈留高校の存続への支援を協議する小部会を立ち上げました。

部会には、UIターン者や地域おこし協力隊などの若い世代も増えましたが、次世代の人材育成も大きな課題です。

私たちは、奈留島に住んでいる人が楽しく、島を誇りに思うことができればこの島はどこから見ても魅力的に映ると思っています。「瞳を閉じて」の歌詞にあるように、「遠いところへ行った友達に 潮騒の音がもう一度届くように」毎月の話し合いを基本としながら、小さな島のみんなで活動が続けていきたいと考えています。